

オリジナルの門松づくりを楽しむ児童



手作り門松で新年の準備を どんぐりクラブがミニ門松作り

御船学童保育どんぐりクラブ(福本和宏会長)が12月23日、田代地区下山でミニ門松作りを体験しました。これは、森づくり活動の支援と推進を目的とした県事業の一環で、今年で4回目です。参加した児童や保護者約30人は、樹齢40年の杉の間伐を見学後、ミニ門松作りに挑戦。松、竹、梅など7種類を飾りつけて、高さ約40㍎・直径約15㍎の門松を作りました。御船小2年の松下渚さん(滝川)は、「門松作りは初めて。お友達と一緒に作れて楽しかった。門松は家の玄関に飾りたい」と新年の準備を話していました。

思いやり運転で事故防止を 年末年始の交通事故防止運動

年末年始の交通事故防止運動が12月21日、上益城地域振興局前で行われ、ドライバーに安全運転を呼びかけました。この運動は、交通事故が多発傾向にある冬場に合わせた取り組みです。町交通安全母の会や町交通指導員など約30人が参加。ドライバーに「気をつけて運転してください」「ライトは早めに点灯してください」と声掛けしました。御船警察署交通課の谷崎英樹課長は、「歩行者のことを考えて、思いやりと、ゆとり運転を心掛けてほしい。歩行者も目立つ服装や反射材を活用してほしい」と安全対策を話していました。



ドライバーにチラシやタオルを手渡し安全運転を呼びかける参加者

古里への思い本に込めて 木倉小に図書費寄附

木倉小学校(牧博幸校長、126人)で12月20日、図書購入に役立ててもらおうと、森田義員さん(熊本市)が100万円を寄附しました。森田さんは、同小同窓生で、幼少時代を木倉の大地で過ごした一人です。母校の後輩のためにと寄附を決めたそうです。贈呈式では、児童代表で6年の大山智子さん(木倉)が「いただいた本をたくさん読んで、新しい考えや知識を取り入れていきたい」と感謝の言葉を述べました。森田さんは、「古里への思いは深まるばかり。自分が生きた証しとして、母校の子どもたちに役立ててほしい」と、古里への切実な思いを話していました。同小では寄附金で児童書などの本約500冊を購入予定。図書館内に「森田文庫」のブースを設けて、児童たちに親しまれながら、大切に本は読み続けられていきます。



牧博幸校長に図書費として寄附金を手渡す森田さん(左)

ディフェンスを巧みなドリブルで抜きさる御船REX



御船REXがホームで奮闘 吉無田ジュニアサッカー大会

標高600㍎にある大自然のピッチを舞台に「8人制ジュニアサッカー大会」が12月3日、吉無田高原「緑の村」で開催されました。同高原イベント実行委員会が主催して、青少年の健全育成と健康増進、観光推進を目的に、今大会で11回目。県内から22チーム約230人が出場して、小学1年生から3年生までが5つのパートで熱戦を繰り広げました。御船町から唯一出場の「御船REX」(永野英二監督)は、ホームの大声援を背に選手が奮闘。2年生Aと同B、3年生Bが各パートで3位入賞を果たし、ホームの底力を見せつけました。

地域交流で風習を次世代へ 中辺田見もちつき大会

カッパ像がシンボルの若宮堰ふれあい広場(辺田見)で12月11日、中辺田見もちつき大会が行われ、地域住民や事業所従業員約80人が交流しました。この行事は、年末の風習を次世代に伝えながら地域の親睦を目的として、今年で10回目。もち米50*を蒸し、石臼ときねでもち約1000個を作りました。つきたての軟らかいもちは、中辺田見約150世帯に配られました。馬場洋一郎区長は、「もちつきは年末の恒例行事で、介護施設や高齢者にも大変喜ばれる。地域交流を深めて、結束を強めていきたい」と地域の絆を話していました。



石臼ときねでもちをつく事業所従業員と地域住民

宮を基点に団結した地域へ 餅畑天満宮しめ縄作り

上野地区餅畑で12月18日、餅畑天満宮前にある鳥居のしめ縄作りが行われ、地域住民14人が参加しました。天満宮は元々、現在の場所から約60㍎下にありましたが、昭和35年頃に簡易水道が開通して、集落機能が移転したことを機に移設しました。鳥居は高さ3.5㍎・横2.5㍎の石柱で、平成5年に地域住民が建てたものです。10年程前は、個人が鳥居のしめ縄作りと交換作業を一手に引き受けていましたが、地域で保存を行い、年末の伝統行事として生まれかわりました。その年の稲わらを持ちよって鳥居のしめ縄約6㍎と、14世帯の玄関先に飾るしめ縄を手作業で丹念に編み込んでいました。餅崎武久区長は、「宮を基点に地域を振り返りながら、まとまっていきたい」と集落のつながりを大切に話していました。



天満宮の鳥居前に腰を据えてしめ縄を編み込んでいく地域住民